

## 第18回グリーン経済部会 議事メモ

日時：平成20年4月21日（月）18:30～

場所：星陵会館 3階B会議室

参加者：松下、宇郷、中山、井田、加藤、藤村、図師田（文責）

### 配布資料

資料1：第二案

資料2：経営者「環境力」大賞へのご応募のご案内

資料3：投資家・従業員などの皆さんへ「環境力」ある経営者の資格評価へのご活用

資料4：「環境力企業顕彰（仮称）」制度概要

### これまでの振り返りと本日の趣旨

- 経営者「環境力」大賞への応募のご案内について
  - ・ 経営者は自らマイナス評価を受けることを避けたいし、一方で「大丈夫だ」と評価している場面もある。資料2及び3のような方法でお願いしないと出てこないのでは、呼びかけるために作成した。
- 投資家・従業員等の皆様へは外部からの評価。それによって経営者を抽出していきたい。
- 「プレジデント」へは掲載済み。しかし、再度こういった形のを提案し掲載依頼したいと思う。
- 二次案のリード文章は資料2の上に置き換える。
- 「経営者」「企業」のいずれを表彰するのかについては、「経営者を表彰する」としたがどうか。あくまで経営者に力を付けて欲しい。
- 表題については現状のものでOK。PJ全体のテーマを「経営者の『環境力』大賞」などの形にする
- 「環境文明21」並びに「環境力」については、説明書きを付ける。
- 本日は、前回の議論を受けた第二案に対して、自由にコメントいただきたい。

<第二案>の検討（本日気がついたことを自由にコメント。結果は事務局が後日集約。）

#### 1. 情報公開

(ア) 評価基準について

- 標準的行動を取っているのは3点。法律で要求されているレベルで最低限のことをやっている。一般的な行動。「理解しており、標準的な行動をしている」とする。
- この場合の5点はどうなるか  
→ トップランナー、先進的、という話になる。リーダーシップでは弱い。社会や業界を率先する程度なければならない。
- 「本質を十分理解し、リーダーシップの意識をもって行動している。」が5点。業界の中でも先頭を切っているということ。
- 本田宗一郎の言葉、「マスキー法は天の助けだ」として従業員を叱咤激励したという例がある。
- 3点は、「ネガティブな情報を含めて、あらゆるステークホルダに対して、自ら率先して情報を公開する。」

(イ) 趣旨について

- 国内、国外を分けることは不要。
- 趣旨は中身の解説ではない。「なぜ、こういう項目を設定したか。」項目をおいた、背景・理由。文言を「趣旨」から「設定趣旨」に変更。

- 良い情報を流しがち、ブランド面で不利になる情報は隠置しがち、そこをあえて超えるために情報項目を設定した。
- 最近でも情報の隠蔽や隠置がある。食品の問題も同様。結果的に自ら企業イメージをマイナス化している。開かれた事業経営を目指す。
- 情報の適切な公開が当たり前に行われているわけではない。基礎的な事項なので、上位項目とした。
- 不都合な情報を隠したりねつ造したり談合やカルテルがある。結果的に企業の信頼と持続性を損ない、企業価値を毀損したりする例が絶えない。

## 2, 100年先を見通した～

- 趣旨、3点の基準はOK
- ですます調を統一。

## 3, 先取りする力～

### (ア) 設定趣旨

- 時代の潮流を理解しない、内向きで独りよがり。(日本は二酸化炭素対策について「乾いた雑巾」などと言っている)
- 内向きを知ること大事。外の情報を知ること大事。それによって客観的に捉えられる。アナを高くする必要があるということ。
- 趣旨に「内向きで独りよがりの認識では時代の潮流から遅れ、企業の経営力を損なうおそれが強い。」といった内容を入れる。

### (イ) 評価基準

- 問題は関心のあり方。色んな事柄に関心を持って、好きなこと、分かっていることだけに関心を強めるのではなく、情報に接していくこと。関心の向き方が大事。「自分の仕事以外でも、世間一般における情報については関心を持ち、一通り目を通す」が3点。
- 「内外のマスメディア」はカットしたほうがいいのでは。
- 5点は、「自分が置かれている業界の情報だけではなく、広分野に対して関心を持っている。」また、「メジャーではなく、マイナーな点に対しても目を向けている。」という点も含まれる。

## 4, 協働責任

### (ア) 設定趣旨

- 競合する業界の中における協働に限らないのか。
- 他社とも協働するというのは談合するという意味ではない。
- 他社にはNPOは含まれない。NPOや宗教団体と一緒にいる。同じ電気業界で競合しあっているのか。
- 「他社」は「他者」ではないか。→頭の中には一つの業界という想定が合った。
- 業界という前提がなければ、おかしい。もう少し考えて広く取ろうという考え。
- 業界の中で連携が取りにくい。規制対応には、協働する。
- 談合も、言い換えれば富の配分を公平にする機能を持つと解釈される。誤解される文章であるので、談合ではないことを示す必要がある。
- 社会的課題に変更。設定の趣旨、環境や働き方などの具体的項目を入れる。
- 趣旨は「他社とも協働して、社会的課題に対する責任を果たそうとする意志。」という趣旨を入れる。設定趣旨の中で類似的に例示を挙げる。

### (イ) 評価基準について

- 3点の基準について「競合他社」と明確に。社会の利益とは？→「公共の利益」。

## 5, 働くことの価値

### (ア) 設定趣旨

- 設定趣旨は人を経営資源として認識しているが、機械的になっている点が問題。コスト削減のために真っ先に人件費や教育費が削減される。
- 働くことの価値を認め自社ですべての働く人びとの働く意欲を高める力。
- 趣旨は「短期的利益を上げるために、正規雇用を減らす傾向にあります。企業の力は人材です。グループを含め自社で働く人が高い意欲を持って働ける環境を形成するのは、経営者として当然である。」といった趣旨にする。

### (イ) 評価基準について

- 「人事担当者」はカット。「担当者に指示している」もカット。
- 5点の場合は、積極的に人事に介入する、意欲を高めるよう会社に対する希望や不満を述べる等、がある。
- 「多様な働き方が出来るように配慮」について「働き方」のみが取り上げられているのはどうか。個人の業績と給与システム、給与等、配慮にはいろいろな項目があるが、「働き方」だけに特化している。→意欲は「働き方」が関連していると。
- 関わりある人々とは「自社の社員」だが、「アルバイト」もかかわるという意味では、自分の会社の中で働いている人。
- 広い意味ではステークホルダーといった方が明確。国連のグローバルコンパクトの観点からは、そういう趣旨。しかし、今回の趣旨は、環境の観点。
- 自社の社員の働く意欲を高める→最近では正社員だけではなく、アルバイトもいる。現在の文章はそのように読めない。
- 「自社で働く全ての人」と言えば、下請けを含めて述べるか。
- 働くことの価値を認め自社で働く全ての人。請負業務ははいる。部品を作る下請けの会社は入らない。
- 連結対象。つまり「ガバナンスが効く範囲」。
- 3点には、「適正な人事評価制度や福利厚生制度を設け、グループを含め自社で働く全ての人が充実した働き方ができるように配慮し、指示している。」といった趣旨で。

## 6, 地域社会との交流

- 趣旨はOK。

### (ア) 評価基準

- 「寄付する」は違和感がある。それが標準的な関わり合いか。自発的意志を持つ。地域との信頼関係や、人間関係が作れるか。企業市民としての役割を果たしているか。
- 社員ともども参加し地域の活性化に、人・もの・かねで関与している。
- 5点は、「自ら関与し地域の振興も考える。」という趣旨を含む。
- 最低限、住人として同じレベルになっている。
- 3点は「地域のまつり・・・社員共々積極的に参加し、地域の活性化に協力している。」といった趣旨を追加。

## 7, 経済と環境を一体化

### (ア) 設定趣旨

- 全ての企業の活動基盤は環境資源であることを考えれば、環境の経済の一体化は当然のこと。

### (イ) 評価基準

- 3点は担当者に検討させている。5点は経営者が自ら率先して検討している。

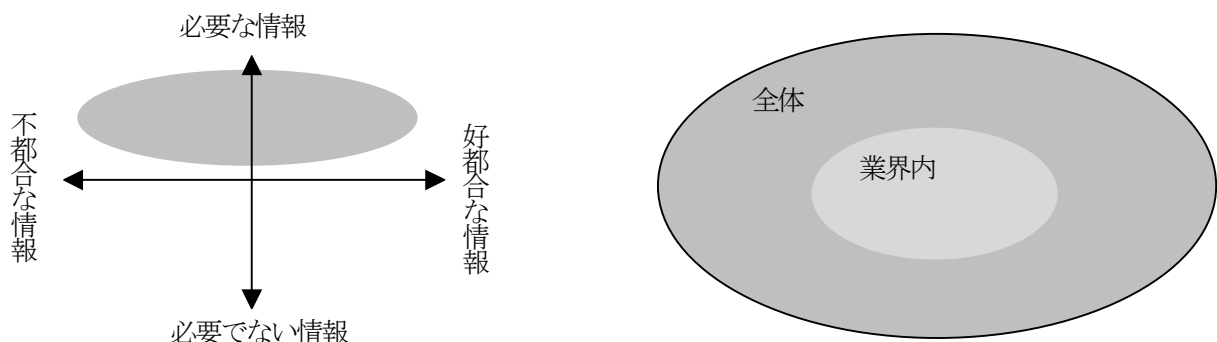
- 経済活動とは、焦点が定まらない。→「当社の事業が」に変更。「環境保全活動」をカット→「環境対応」に変更。
- 3点は「当社の事業が環境によいものとなり、環境対応が当社のイメージの向上につながるよう、・・・。」という趣旨。成果がなくとも、「努力している」「つとめている」「工夫している」「試行錯誤している」（←他に適切な表現がないか。）
- 5点は、経営方針を立て、実践している。経営方針を立てて実践している。何を以て実践している。事業計画が環境対応目標と一体化している、という状況を言っている。
- 3点は、最低限標準を考えると、最低、1つか2つ、具体的な目標が設定できている、試行錯誤、という意味ではなく、「目標設定して努力している。」事業目標＝環境目標という内容になっていることを示す。
- 3点は相対的の評価。最後は、「目標を設定している」とする。

## 8、事業を大きくし過ぎない勇氣

- 趣旨はOK。
- (ア) 評価基準
  - 「気にしている」では弱い。「常に点検している。」
  - ～規模が、事業特性、社会～：事業特性を追加
  - 5点は、予算化して、事業の大きさ、規模の適正化を予算化して実行する。

## 9、科学を理科し、経営に活かす力

- (ア) 評価基準
  - 5点：戦略の中に入れてある。外部専門家を招き勉強して企業経営に積極的に活かす。講義して教えてもらう。
  - 自分の企業に対する最先端の事業。研究をもってやる。
  - その関連で「10、技術動向」との違いが分からなくなる。
  - 原案の段階では、科学技術ということ。「科学」と「技術」で分けた方がいい。
  - 自分の都合の良い科学を受け入れる、もしくは、悪い時は信じない。
  - 環境問題だけに特化するのか→環境問題に関するものだけでもいいのか。経営者が科学一般に対して趣味的という意味ではない。
  - 「事業活動にかかわる」という狭い意味ではなく。趣旨には、科学を自分の都合で取捨選択するのではなく、・・・」という趣旨が必要。



## 10、技術動向を常に把握し、経営の発展

- 趣旨はOK。
- (ア) 評価基準

- 5点、自ら行い外部の専門家の意見を聞き、研究部署を設ける。そのような部署もない会社もある。どんなに小さい会社でも技術動向は常に確認する。
- 「調査する部署」をカット
- 技術開発という言葉がある。
- メーカー・流通等、技術を発展させない会社もある。
- 技術はどのようなレベルを指すのか。流通の技術がある。
- 「最先端の技術動向の知見の収集に努め」といった趣旨を入れる。

#### 1 1, 畏敬の念

- 趣旨に、「技術は万能、お金は全てという考えに陥りがちですが。」という文言を入れる。

#### 1 2, コミュニケーション力

- 「積極的」を省いたほうがいいのか。5点は「意識的」に場を作っている姿勢。「意識的に目標を作って」が5点。
- 「積極的に」→ 「なんらかの形でコミュニケーションを取っている」など。

#### 今後のスケジュール

事務局で集約

↓

連休前に周知徹底

↓

5月上旬に会合を開催